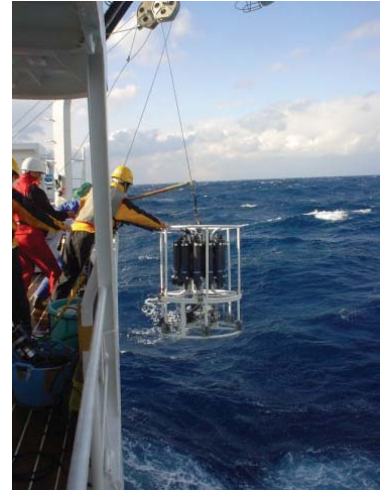


## 資源海洋部

### Fisheries Management and Oceanography Department

資源海洋部は、東シナ海及び東シナ海に接続する海域における水産資源、資源生態及び水産海洋に関する研究開発を行っています。研究の成果は漁業者に役立つ情報として資源評価や漁海況予報として提供されると共に、周辺国とまたがる資源の持続的利用を図るための根拠として活用されています。地球温暖化等、変化する環境の中での水産資源の変動機序の解明などにも取り組んでいます。東シナ海及び接続海域に分布する水産資源の生態評価、管理方策についての研究を行う**浮魚資源グループ**と**底魚資源グループ**、水産資源を取り巻く生態系の構造や機能、餌料環境の研究を行う**生態系変動グループ**、及び水産資源の変動に影響を与える海洋環境のモニタリング、海洋動態・物質循環に関する研究を行う**海洋環境グループ**によって構成されています。



## 資源生産部

### Stock Enhancement and Aquaculture Department

資源生産部は、東シナ海及び周辺海域における増養殖の対象となる水産生物の資源の維持増大、管理、生理及び生態に関する研究開発を行っています。ブリなどの養殖対象種の安定生産に関する研究と技術開発を担当する**魚介類生産グループ**、温暖化等により変遷・衰退する藻場の回復と減少したアワビ類、イセエビなど重要資源の増殖技術開発、高付加価値化を目指したノリの育種、マダイ、ヒラメ、クエ等の資源管理方策を研究する**藻類・沿岸資源管理グループ**によって構成されています。



## 有明海・八代海漁場環境研究センター

### Research Center for Fisheries and Environment in the Ariake and Yatsushiro Bays

有明海・八代海漁場環境研究センターは、有明海及び八代海における漁業及び漁場環境、水産生物の増養殖、生理及び生態に関する研究開発を行っています。有明海・八代海における環境変動の現状把握と生物生産に及ぼす影響評価、自動観測ブイを活用したモニタリングによる赤潮・貧酸素水塊の被害軽減及び発生機構の解明等を担当する**環境保全グループ**、有害赤潮の毒性発現機構の解明と被害軽減技術の開発、アサリ、タイラギ等の二枚貝類資源の回復・増養殖技術の開発等を担当する**資源培養グループ**によって構成されています。

